

まちにぎワークショップ報告会（景観まちづくり講演会）

日 時：平成29年2月20日（月）

午後6時30分～7時30分

場 所：行田市商工センター 403研修室

参加者：51名

報告会では、今年度4回にわたり開催したワークショップ結果を報告しました。

また当日は、埼玉県景観アドバイザーによる実践的な景観まちづくりをテーマとした講演会を併せて開催しました。

●報告会

（開催風景）



●講演会

（開催風景）



（質疑応答）

【参加者】昨今では、まち並みの名称がワークショップなどで簡単に変更されてしまう傾向にあるが、そうした中で、どのようにすれば古い名称を残すことが可能となるのか。

- 【講 師】現在、東京都台東区において旧町名を復活させようとする動きがあるが、結局は地元住民で決めることであって、地元が良いと言えば良いと思う。地元がどのように決定するのか意思決定手法については、まさにワークショップなどを採用すれば良いと思う。
- 【参加者】まち並みの優先順位は、ハード整備が優先されるべきか、それとも、住民の交流を経た後のソフト施策の展開が優先となるのか。
- 【講 師】優先順位については、なかなか難しい面がある。と言うのも、ハード整備も大事だが、従来のハード整備では整備したものの使い勝手が良くない、といった面があった。また、整備当時は良くても時代に合わなくなったなど、まち並みの変化も早くなってきている。そのことから、ハードに関しては、街路整備などによりすでに行っているものもあるだろうが、既存のものをコンバージョン（改修）、リノベーション（用途・機能変更）をするなど、なるべく費用を掛けずストック（今あるもの）を活用するよう、知恵を絞る必要があると思う。
- 【参加者】行田市には現在、景観条例など景観に関するルールが出来ていない。そうしたなかでまち並み整備は進んでいるが、ルールがないなかでのまち並み整備に対するギャップ、ずれをどのように判断すべきか。
- 【講 師】景観条例に基づく景観計画のなかで整備を進めていくことも、もちろん可能だが、一方では景観計画を策定するにあたる準備段階として、住民間で、このような景観計画をつくりたい、と言ったアイデア出しを経て、景観計画を作成する方向へ持っていくこともあるだろうし、地区計画も含め、景観条例を作らないと景観整備に関する取り組みはできない、ということはなく、様々な取り組み・方策があると思う。ただし、それらを行うのは市民だけでは当然難しく、行政との連携が必要となると思う。
- 【参加者】本日の講演における事例であれば、ハード整備に際してもさしたる費用は掛からないと思うが、従来のハード整備では費用の問題が必然的に付いて回ることとなる。その点の対策について、参考となるものがあれば教えていただきたい。
- 【講 師】費用面の問題については、先程の回答においても触れたが、今あるものをなるべく活かすべきである、と思う。壊したからといって、以前より良い建物が建つかというと、必ずしもそうとは限らない。現在は耐震技術や、安全性が担保された木材を上手に活用した建築技術など、改修技術は進んでおり、様々なことが出来るようになった段階にある。そうしたことから、これからはスクラップアンドビルドではないが、費用の掛けどころを工夫した地域づくりが大事になると思う。